B01 北海道におけるダニ媒介性脳炎に関する疫学的研究

1. 野ネズミにおける抗TBEウィルス抗体保有状況

高橋健一[○]・伊東拓也（北海道衛研）・竹田 努（北大・地環研）・高島郁夫（北大・獣医・公衆衛生）

Epidemiological study on tick-borne encephalitis in Hokkaido.

1. Prevalence of anti-TBE virus antibody among field rodents.

Takahashi K., Ito T., Takeda T. and Takashima I.

北海道渡島支庁管内でイヌから分離されたTBEウィルスを用いて、道南地方で捕獲した野ネズミ血清中の抗体保有状況について中和試験法により検討を行った。1993年にダニ媒介性脳炎患者が発生した地域に隣接する2地点で1996年10月から1997年10月にかけて定期的に野ネズミの捕獲を行い抗体保有状況を検討したところ、一方の地点では合計4回の調査期間中126頭検査を行い22頭(17.5%)の陽性例が検出されたのに対し、もう一方の地点では、合計3回の調査で51頭の野ネズミを検査したが、陽性例は検出されなかった。また、本ウィルスの侵淫状況を調べるため、道南地方で新たに7地点でネズミの捕獲を行ったところ、5地点で抗体保有例が確認された。

B02 北海道におけるダニ媒介性脳炎に関する疫学的研究

2. 患者発生地周辺のマダニ相

伊東拓也[○]・高橋健一（北海道衛研）・竹田 努（北大・地球環境研）・高島郁夫（北大・獣医・公衆衛生）

Epidemiological study on tick-borne encephalitis in Hokkaido.

2. Tick fauna around the site in which a TBE case was reported.

Ito, T., K. Takahashi, T. Takeda and I. Takashima

調査は、患者発生地周辺の植生あるいは野ネズミ上のマダニ相、および、その季節的変化等を把握することを目的とした。マダニはフラッキングにより植生上から、また、前報告のウィルス侵淫状況調査で得た野ネズミから採集した。フラッキングは1997年5月および6月に、前年秋の野ネズミ調査地点（渡島管内上磯町）6カ所で行った。さらに、そのうち2地点において、8月および10月にも試みた。その結果、植生上では *Ixodes ovatus* 成虫が優占し、*I. tanuki* 成虫および *I. persulcatus* 成虫が一部の地点で得られた。また *I. ovatus* は、少数ながら10月にも得られた。いくつかの調査地点で10月に捕獲した野ネズミの一部には、*I. tanuki* 若虫が多数寄生していることが明らかになった。